

「インクルーシブな学校運営」 通信 第18号

カリキュラム・マネージャー

令和8年度「共に学ぶ会」がスタート

◎ 3拠点（中高養、更農、上士幌）で実施

6月24日（水）令和8年度第1回目の「共に学ぶ会」が行われました。この日のテーマは「学習への意欲が乏しく、無気力に見える生徒の理解と対応」で、KJ法によって「無気力」の背景を捉えたり、事例をもとに生徒の実態をきめ細やかに把握するなど、活発な意見交換が行われました。

今回は上士幌高校から2名の参加がありました。意見交換に加わった養護教諭の先生は「本校でも、同じような課題をもっている生徒がおり、可能ならば今後もこのような場に参加したい。」と感想を述べられていました。



◎ C o 通信「ふきのとう」で詳細を情報提供

「共に学ぶ会」では、実際の事例をもとに実践的な研修を積み重ねてきました。実施後のアンケートでは参加した先生の満足度も高く継続を望む声が多くありますが、その一方で、業務との関係で参加できない先生も多いのが実情です。

このような状況を踏まえ、「共に学ぶ会」で実際に出された意見などを掲載したC o 通信「ふきのとう」が実施後に発行されることになりました。

7月10日付けの第1号には、参加者が和気あいあいと意見を交流した、「やる気が出ないとき」や、事例検討で問題状況の核心に迫る質疑などがまとめられています。

【事例検討】

今回の事例検討では、実際の「生徒の姿」を詳しく聞き取り、「無気力の正体（原因）」をさまざまな先生方からご意見をいただきました。ここでは、原因を見立てるために出た質問や、原因の見立て、そこから考えられるアプローチの方法を共有します。

生徒の姿	無気力の正体（原因）	アプローチの方法
Q:やる気がないと思われる状況で、本人はどんな行動をする？	・経験がなく、分からないことが多いのでは？	・（本人が受け入れられる状況であれば）一人で「できる授業、できない授業」をチェックしてもらう。 ⇒できない理由と考えられる選択肢を提示して、一緒に考える。「何があげばできるのか」も一緒に考え、本人が自分のことを理解できるようにする。
Q:やる気を出して取り組めるのはどんな授業？	・困ったときのヘルプの出し方が分からないのでは？	・特定の先生がいるとできる状況であれば、授業のはじめだけでも一緒に参加し「一人でも大丈夫」の状況をつくる。 ⇒その後、すぐに「今日どうだった？頑張れたね」という振り返りを繰り返す。
Q:中学校での学習への取り組み方は？不登校傾向はあったか？	・やらなくてもなんとかなるという経験から誤学習している？	・目的やゴールを明確に設定する。
Q:得意なこと、好きなことは？	・特定の教師に対して甘えたい気持ちがある？	・スモールステップで、本人が確実に「できた！うれしい！」と感じる経験を積めるようにする。（手伝いをしてもらって褒める、「〇〇先生が褒めてたよ〜」等）
Q:学力的な困難さはある？	・本人にとって苦しい状況かも？	
Q:どのような家庭環境？		

事例検討の内容 「ふきのとう」第1号から抜粋

令和8年度「オンライン共同学習」がスタート

◎ 中高養1年生に参加希望調査

6月18日（木）令和8年度実施計画に基づいた説明会が実施されました。この説明会は、「オンライン共同学習」の主な対象生徒となる1年生に、授業の概要を知らせる目的で昨年度から実施しています。

今年の説明会では、新たに作成したリーフレットを使い、更別農業高校と連携して様々な「交流及び共同学習」の機会を設けていることを説明しました。

説明の後、生徒アンケート調査を実施し、授業への参加希望を把握しました。



◎ 中高養C〇が更農でチームティーチング

6月30日（火）本年度第1回目となる「オンライン共同学習」が更農1年A組と中高養1年14名が参加して実施されました。

題材は「SST～日常にある葛藤や感情について考える～」で、久しぶりの休みを楽しみにしていた「私」に「妻」からの一言がふたりの間に葛藤を生んでしまうという場面が扱われ、立場による違いや葛藤を調整する方法などについて話し合われました。

MTはこれまで同様更農の岡田Tが務めました。自身の経験を題材にしたこともあり、終始笑顔で生徒とのやりとりを楽しんでいるようでした。更農側の授業には今年から中高養の前谷TがSTに入ってPC機器の操作や生徒観察などを担当し、意見交流の場面がよりスムーズに行われるようになりました。

中高養側でMTを務めた伊藤Tは、「参加した生徒は一生懸命考えており、発表する生徒もしっかり伝えようと努力していました。授業後にはみんな「楽しかった」と言っていました。」と授業の手応えを感じているようでした。

2回目は10月29日（木）で、当日は静岡県からの視察が予定されています。

授業の目標

お互いの感情について考え、既存のアサーションの学習を生かしながら、よりよい課題解決の方策を考える。(思考・判断・表現)

自分の考えを書いたり、発表したりして取り組むことができる。(学びに向かう力)

